

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■136■

新年度に入り、県内各地で満開のサクラが見られたが、関税を巡る話題で落ち着けない。製造業が盛んな当地にとつて重大な問題であり、交渉の行方や影響が注目される。ただ、追加関税の規模や期間は、全く見極めがたい。

ある人がこんなことを言っていた。「アトラスが肩をすくめる」。アトラスとは、ギリシャ神話で地球を双肩で支える罰を受けた神だ。無尽蔵な体力を持ち、世界の秩序を支える存在になぞらえられる。アトラスのごと

## 上州の春のお祭りから

### 肩すくめず、おおらか

く重責を担う人々が肩をすくめる、つまり責任を放棄したら、社会はどうなってしまうのか。トランプ米政権内には、これ

基づいているのならば、追加関税はただの交渉カードではなく、議論は一筋縄ではいかないかもしれない。

ただ、我々はいま、できることをやるほかない。さまざまなケースを想定して、できる準備をすることが肝要ではないか。

をテーマにした1950年代に出版された小説のファンがいるらしい。

つまり、「アメリカは

『世界経済を支える』という責務を不当に負わされてきたが、もう解放されるべきだ」という主張だ。もし、アメリカの通商政策がこうした考えに

このように不安な時こそ「お祭り男」の出勤だ。春のお祭りは、五穀豊稔を祈る神事が多い。

見学してみても大変興味深かった神事を二つ紹介したい。

一つは、赤城の「御神幸」。毎年4月と12月の初辰の日に、前橋市内に

ある二宮赤城神社から三夜沢赤城神社までご神体を奉じる。宮城郷土史会の岩崎桂治さんによれば、同じ赤城神でも、二宮は里の神、三夜沢は山の神なのだそう。春は山から里へ神を迎え、秋には里から山へお送りする、祈りと感謝の神事。結果を張った社殿からご

もう一つは、上野村乙父の「お川瀬下げ」。8人の若者が、おみこしを丘の上から神流川まで降りし、川中に設置された御台所でご神体を清めるという神事だ。担ぎ手は神様に息がかからないよう、含み紙を口にくわえ、その姿が厳かで、息を飲んで見入った。

上州の神様は、肩をすくめずおおらかに、人を社会を包み込んでくれる気がする。

宮 将史(みや・まさふみ)

1974年生まれ。神奈川県出身。一橋大経済学修士。

2000年日本銀行入行、政策委員会室国会渉外課長などを

を経て24年7月から現職

